

去して我れを海より擧げりて、汝が我が言ひ遣す處におもく、其處にて之をくづすべし。汝之を愛よ、又汝が家のために食物を與へて、わが望を成せし。斯てヒラハツロモツに其見て望むべきと、楯の材木を極の材木を與へたり。又ツロモツヒラハツロモツの食物として、小麥二萬石を與へ、また清油二十石を與へたり。斯くツロモツの年々ヒラハツロモツに、ヒラハツロモツに智恵を賜へり、またヒラハツロモツの間睦み、くして二人偕に契約を結べり。爰おツロモツ王ヒラハツロモツの全地を徵募人を與せり、其徵募人の數ハ三萬人なり。ツロモツかれらを一ヶ月交代に一萬人づゝづ、レバツンに遣せり、即ち彼等ハ一月レバツンに二月家にわたり、アトニラハツの徵募人の督者なりき。ツロモツ負載者七萬人、山お披て石を破る者八萬人あり。外に又其工事の長なる官吏三千二百八ありて、工事お作く、民を統たり。かくて王命じて、大いなる石貴き石を鑿出さ、め、琢石を以て家の基礎を築かし、ヒラハツロモツの建築者、ヒラハツの建築者、およびツロモツの石を、破り、琢石を以て、家を建るお備へたり。

第四節 ヒラハツの子孫のニツロモツの地を出たる後、四百八十年ツロモツのイスマエルのイスラエルに王たる第四年ツの月、即ち二月にツロモツエホバのため、家を建ることを始めたり。ツロモツ王のエホバの爲、お建たる家、六十六キエヒト、潤二十キエヒト、高三十キエヒトなり。家の拜殿の廊ハ家の潤、お循ひて、長二十キエヒト、家の前の其潤、十キエヒトあり。彼家に造り、附の格子ある窓を施たり。又家の牆壁、お附て、四週に連、接屋を建て、家の牆壁、即ち拜殿と神殿の牆壁の周圍、お環らせり。又四週、小旁房を造れり。下層の連接屋ハ潤、五キエヒト、中層の潤、六キエヒト、第三層の潤、七キエヒトあり。即ち家の外、階級を造り、環り、して、何物を、家の牆壁、お挿入せしむ。家人往る時、お鑿石所、おて、鑿り、預備たる石、おて、造り、たれ、を、遣れる、間に、家の、中

1 代百十六
 又潤三 潤七十
 2 代二十
 3 代百十六
 4 代百十六
 5 代百十六
 6 代百十六
 7 代百十六
 8 代百十六
 9 代百十六
 10 代百十六
 11 代百十六
 12 代百十六
 13 代百十六
 14 代百十六
 15 代百十六
 16 代百十六
 17 代百十六
 18 代百十六
 19 代百十六
 20 代百十六
 21 代百十六
 22 代百十六
 23 代百十六
 24 代百十六
 25 代百十六
 26 代百十六
 27 代百十六
 28 代百十六
 29 代百十六
 30 代百十六
 31 代百十六
 32 代百十六
 33 代百十六
 34 代百十六
 35 代百十六
 36 代百十六
 37 代百十六
 38 代百十六
 39 代百十六
 40 代百十六
 41 代百十六
 42 代百十六
 43 代百十六
 44 代百十六
 45 代百十六
 46 代百十六
 47 代百十六
 48 代百十六
 49 代百十六
 50 代百十六
 51 代百十六
 52 代百十六
 53 代百十六
 54 代百十六
 55 代百十六
 56 代百十六
 57 代百十六
 58 代百十六
 59 代百十六
 60 代百十六
 61 代百十六
 62 代百十六
 63 代百十六
 64 代百十六
 65 代百十六
 66 代百十六
 67 代百十六
 68 代百十六
 69 代百十六
 70 代百十六
 71 代百十六
 72 代百十六
 73 代百十六
 74 代百十六
 75 代百十六
 76 代百十六
 77 代百十六
 78 代百十六
 79 代百十六
 80 代百十六
 81 代百十六
 82 代百十六
 83 代百十六
 84 代百十六
 85 代百十六
 86 代百十六
 87 代百十六
 88 代百十六
 89 代百十六
 90 代百十六
 91 代百十六
 92 代百十六
 93 代百十六
 94 代百十六
 95 代百十六
 96 代百十六
 97 代百十六
 98 代百十六
 99 代百十六
 100 代百十六

去して我れを海より擧げりて、汝が我が言ひ遣す處におもく、其處にて之をくづすべし。汝之を愛よ、又汝が家のために食物を與へて、わが望を成せし。斯てヒラハツロモツに其見て望むべきと、楯の材木を極の材木を與へたり。又ツロモツヒラハツロモツの食物として、小麥二萬石を與へ、また清油二十石を與へたり。斯くツロモツの年々ヒラハツロモツに、ヒラハツロモツに智恵を賜へり、またヒラハツロモツの間睦み、くして二人偕に契約を結べり。爰おツロモツ王ヒラハツロモツの全地を徵募人を與せり、其徵募人の數ハ三萬人なり。ツロモツかれらを一ヶ月交代に一萬人づゝづ、レバツンに遣せり、即ち彼等ハ一月レバツンに二月家にわたり、アトニラハツの徵募人の督者なりき。ツロモツ負載者七萬人、山お披て石を破る者八萬人あり。外に又其工事の長なる官吏三千二百八ありて、工事お作く、民を統たり。かくて王命じて、大いなる石貴き石を鑿出さ、め、琢石を以て家の基礎を築かし、ヒラハツロモツの建築者、ヒラハツの建築者、およびツロモツの石を、破り、琢石を以て、家を建るお備へたり。

ユヒトの高、おける、連接屋を、建環し、楯をもて、家に、交接たり。爰に、エホバの、言ツロモツ、お臨みて、曰く、汝、今、此、家を、建つ。若し、汝、わが、法憲に、歩み、わが、律例を、行ひ、わが、諸の、誠命を、守りて、之、お奉り、た、ひて、歩ま、わ、れ、わ、ら、ぬ。汝の、父、ツロモツに、言ひ、語を、汝に、固う、すべし。我、ヒラハツ、エホバの、子孫、の中に、住む、わが、民、ヒラハツ、エホバを、乘さ、るべし。

去、ツロモツ、家を、建終れり。彼、楯の、板を、以て、家の、牆壁の、裏面を、作れり。即ち、家の、楯板より、頂格、お壁、を、以て、木をもて、其、裏面を、は、り、また、楯の、板をもつて、家の、楯板を、は、れり。又、家の、奥に、二十キエヒトの、室を、楯板より、楯壁、まで、楯をもて、造れり。即ち、家の、内に、至聖所、なる、神殿を、造れり。家、即ち、前、お、わ、る、拜殿、ハ、四十キエヒト、なり。家の、内の、楯、お、映、る、花を、彫刻、め、る、者、お、皆、楯、お、して、石、見、え、ざ、り、き。神殿、ハ、彼、其、處、お、エホバ、お、製、約の、櫃を、置ん、ど、て、家の、内の、中に、設け、たり。神殿の、内の、長、二十キエヒト、潤、二十キエヒト、高、二十キエヒト、なり。納金をもて、之を、蔽ひ、又、楯の、壇を、覆へり。又、ツロモツ、納金をもて、家の、内を、蔽ひ、神殿の、前に、金、お、籠をもて、間隔を、造り、金を、もて、之を、蔽へり。又、金を、もて、殘ど、ころ、かく、家を、蔽ひ、遂に、家を、飾る、こと、を、惡く、終、たり、また、神殿の、傍、お、る、壇、ハ、皆、金を、もて、蔽へり。神殿、内、に、楯、櫓の、木をもて、二の、ツルビムを、造、り、其、高、十キエヒト、ト、其、ツルビム、の、一、の、ツルビム、又、其、ツルビム、の、他の、ツルビム、五キエヒト、なり。一、の、ツルビム、の、末、より、他の、ツルビム、の、末、まで、十キエヒト、彼、ツルビム、も、亦、差、かり。ツロモツ、家の、内の、中に、ツルビムを、置、お、ツルビム、の、翼を、展、し、け、れ、ば、此、ツルビム、の、翼、ハ、此、牆壁に、及び、彼、ツルビム、の、翼、ハ、彼、の、牆壁に、及び、て、其、兩、翼、家の、中に、て、相、接、れり。彼、金を、もて、て、

1 代百十六
 2 代百十六
 3 代百十六
 4 代百十六
 5 代百十六
 6 代百十六
 7 代百十六
 8 代百十六
 9 代百十六
 10 代百十六
 11 代百十六
 12 代百十六
 13 代百十六
 14 代百十六
 15 代百十六
 16 代百十六
 17 代百十六
 18 代百十六
 19 代百十六
 20 代百十六
 21 代百十六
 22 代百十六
 23 代百十六
 24 代百十六
 25 代百十六
 26 代百十六
 27 代百十六
 28 代百十六
 29 代百十六
 30 代百十六
 31 代百十六
 32 代百十六
 33 代百十六
 34 代百十六
 35 代百十六
 36 代百十六
 37 代百十六
 38 代百十六
 39 代百十六
 40 代百十六
 41 代百十六
 42 代百十六
 43 代百十六
 44 代百十六
 45 代百十六
 46 代百十六
 47 代百十六
 48 代百十六
 49 代百十六
 50 代百十六
 51 代百十六
 52 代百十六
 53 代百十六
 54 代百十六
 55 代百十六
 56 代百十六
 57 代百十六
 58 代百十六
 59 代百十六
 60 代百十六
 61 代百十六
 62 代百十六
 63 代百十六
 64 代百十六
 65 代百十六
 66 代百十六
 67 代百十六
 68 代百十六
 69 代百十六
 70 代百十六
 71 代百十六
 72 代百十六
 73 代百十六
 74 代百十六
 75 代百十六
 76 代百十六
 77 代百十六
 78 代百十六
 79 代百十六
 80 代百十六
 81 代百十六
 82 代百十六
 83 代百十六
 84 代百十六
 85 代百十六
 86 代百十六
 87 代百十六
 88 代百十六
 89 代百十六
 90 代百十六
 91 代百十六
 92 代百十六
 93 代百十六
 94 代百十六
 95 代百十六
 96 代百十六
 97 代百十六
 98 代百十六
 99 代百十六
 100 代百十六

